

普及センターだより

くりはら

第119号



みやぎの普及
普及活動標語

思いを形にあなたのチャレンジ支えます。
応援します。農業普及

〒987-2251 栗原市築館藤木 5-1
TEL 0228-22-9404 (地域農業班)
0228-22-9437 (先進技術班)
FAX 0228-22-5795、6144
E-mail khnokai@pref.miyagi.jp
URL <http://www.pref.miyagi.jp/kh-nokai/>

宮城県栗原農業改良普及センター



瀬峰農場の「循環型農業」の取り組みに高い評価!

第40回日本農業賞（日本放送協会・全国農業協同組合中央会等主催）の表彰式が、このほど「エポカ21」で行われ、最高賞である大賞を大内一也さんが会長を務める瀬峰地区循環型農業推進会議（以下、推進会議）が受賞されました。本県代表の大賞受賞は二年振り、栗原管内としては初の快挙となりました。お祝いを申し上げます。

推進会議の活動に対し審査委員からは、

- 耕種農家、畜産農家双方の話し合いにより「土づくりの重要性」を再確認し耕畜連携の活動を主体的に展開している。
- 畜産農家は耕種農家のニーズにあった良質完熟たい肥を生産、稲わら収集に耕種農家が手伝う「結い」の復活等、耕畜双方が抱える問題を解決するシステムを構築している。
- 循環型農業の成果を「エコ・せみね米」として販売し一定のプレミアムを獲得している。

- 「エコ・せみね米」の地域ブランド化や地元住民の支持から彼らの「口コミ」を通じた持続性の高い取り組みなど適切なマーケティング戦略を展開している。

- いくつかの技術革新や組織革新、販売革新を取り入れながら他地域に先んじて「循環型農業」を実現している自律性の高い組織である。

など高い評価を受け、全国から応募された96点の中から大賞に選ばれました。

大内会長の、「美味しいと言ってくれる消費者に支えられている。今後も地道な活動を続けたい」との言葉が印象的でした。

普及センターでは、今後とも関係機関と連携し、「地域の人や資源」に光を当てる活動を展開して参りますので、ご理解と協力をお願い申し上げます。

農業改良普及センター所長 及川 恵壽

特集

農業者戸別所得補償制度等の有効活用について

平成23年4月から農業者戸別所得補償制度がスタートしました。今回は制度の概要と活用のポイント、また関連して、環境保全型農業直接支援対策についてもご説明します。

1 農業者戸別所得補償制度について

この制度は、販売価格が生産費を常に下回っている作物を対象に、その差額を交付することで農業経営の安定、食料自給率の向上等を図るものです。交付対象者は、対象作物の生産数量目標に従って、販売目的で生産（耕作）する販売農家・集落営農組織で、認定農業者かどうかは問いません。下に助成水準と活用のポイントをまとめました。

| 作物 | 助成水準 (全国一律) | 活用のポイント |
|-----------------------|---|--|
| 米 | 15,000円/10a ※ 販売価格が標準的な販売価格を下回った場合の補てん有り | ・ 交付の際、一律10aが控除されるため、個人よりも集落営農での参加が有利 |
| 大豆 (畑作・転作) | 【営農継続支払い】 20,000円/10a 【平均数量払い】 11,310円/60kg (1等12,170円) (2等11,480円) (3等10,800円) (加工用大豆10,120円) | ・ H22に栽培実績があること ・ 営農継続支払いは数量払いの内数となる ・ 上位等級ほど助成が高いので品質向上を図る ・ 生産量を上げること |
| 大豆 (転作) 飼料作物 (転作) | 35,000円/10a | ・ 団地化、大豆の300A技術に取り組んだ場合は産地資金により上乘せされる |
| 米粉用米 飼料用米 WCS用稲 | 80,000円/10a | ・ 実需者との播種前契約が必要 ・ 直播技術に取り組んだ場合は産地資金により上乘せされる |

※ 麦、そば、なたね、加工用米等の記載及び他の加算措置の記載は紙面の都合で省略

2 環境保全型農業直接支援対策について

この対策は、昨年までの農地・水・環境保全向上対策の営農活動(2階部分)に対する支援を独立させたものですが、共同活動(1階部分)の実績の有無を問いません。交付対象者は、エコファーマー認定を受け、農業環境規範に基づく点検を行なっている販売農家・集落営農組織です。今年度は6,000円/10aの予定です。

| | 交付対象となる取り組み内容 | 活用のポイント |
|---|--|---------------------------|
| 1 | 化学肥料、化学合成農薬の5割以上低減の取り組みと、カバークロープの組み合わせ | ・ 緑肥等を取り組みの前後に作付するもの |
| 2 | 化学肥料、化学合成農薬の5割以上低減の取り組みと、リビングマルチ又は草生栽培の組み合わせ | ・ 主作物の畝間や園地に麦、牧草等を作付するもの |
| 3 | 化学肥料、化学合成農薬の5割以上低減の取り組みと、冬期湛水管理の組み合わせ | ・ 冬期湛水は、冬場の水管理ができるかどうかのカギ |
| 4 | 化学肥料、化学合成農薬を使用しない取り組み | ・ 薬剤に頼らない十分な除草対策、病害虫対策が必要 |

以上、概略をご説明しましたが、何かご不明点、ご質問等がありましたら、お気軽にお問い合わせ下さい。一人でも多くの方が制度を上手に活用し、経営に役立てられますよう、普及センターは今後も皆さんを応援していきます。

シリーズ 重点課題

No.1 元気な宮城の農業再生プロジェクトについて

3月11日に発生した東日本大震災は、沿岸部のみならず栗原地域においても農業施設、畜舎、農機具等に大きな被害をもたらし、さらには停電や断水により、栽培中の農産物の生育遅延、収穫の断念等、農業経営に深刻な打撃を与えました。

普及センターでは、地震直後から被害状況の把握に努めるとともに、被災した農家や農業法人の経営再開に向けた支援をしてきましたが、4月からは、全県的な緊急重点課題として「元気な宮城の農業再生プロジェクト」を立ち上げ、関係機関とより緊密な連携をとりながら、復興支援に取り組んでいま

す。

主な活動内容としては、損壊した施設等の復旧に活用できる資金や補助事業の紹介、営農の再開や経営の安定化に向けた資金繰り相談の対応、巡回・栽培講習会等を通じた技術支援などです。もし何かご要望やご質問がございましたら、お気軽にお知らせください。

原発事故に係る放射能の影響が影を落とす中、地域農業の復旧・復興への道はまだ始まったばかりですが、一人ひとりが力を出し合い、この苦難を乗り越えてまいりましょう。

農業用廃プラスチック類は適正に処理しましょう!!

No.2 標高差を活かしたキャベツのリレー出荷体制の確立

強い園芸特産産地づくりを目指す「みやぎ園芸特産振興戦略プラン」の見直しが昨年度行われ、平成23年度から27年度を計画期間とした県全体の新たなプランが策定されました。それに併せて栗原地域の産地戦略プランも見直しが行われ、重点振興品目（産地改革品目）として新たにキャベツを加え、生産振興を図ることとしました。

キャベツは青果としてだけでなくカット用など業務用としての需要も多いので、産地としての評価を高めるには安定した出荷数量の確保と省力・低コスト化が重要となります。普及センターでは当プロ

ジェクト課題の中で、キャベツ生産者の収量や商品化率向上に向けた支援を行うほか、作型の拡大や省力・低コスト化を目指した実証ほを設置し、業務用としてのリレー出荷を視野に入れた栽培体系確立に向けて検討を進めています。具体的には、志波姫地区での冬穫り、高清水地区での夏秋穫りの省力・低コスト化、栗駒耕英地区での夏秋穫りなどを検討する予定です。JA栗っこ等関係機関と連携してこれらの調査を実施しながら、リレー出荷体制確立に向けた支援を進めていきます。

No.3 用途に応じた水稻直播体系の構築

水稻の規模を拡大しても育苗ハウスが不足するため必要な苗を確保できない、4月5月は作業時期が集中するため適期に播種作業を行うことができないといった場合、解決策の一つとして直播栽培があります。

管内全体の水稻直播面積は、平成20年60ha、平成22年100haと年々拡大しており、特にホールクロープサイレージでの取り組みが増えてきています。また現地で行われている直播体系はさまざまあり、それぞれに特徴があります。

粉コーティング方法

（カルパー、鉄粉、コーティングなし）

播種方法

（田植機に装着する播種機、トラクターに装着する播種機、ラジヘリ等）

播種様式

（湛水条播、湛水散播、乾田条播等）

しかし、いずれの場合も「苗立ち数が確保できない」、「生育が揃わない」など安定した収量品質を確保できないケースが目立ちます。また県が作成した直播栽培に関する栽培暦等指導資料はカルパーコーティングに関するものだけであり、現在増えつつある鉄コーティング等新たな直播技術については指導資料が整理されていない状態にあります。

そこで、普及センターは鶯沢地区や一迫地区等で現地実証試験を行いながら、データを蓄積し、栗原地方オリジナルの栽培暦を作成していきます。



No.4 大規模直売所の連携による販売力強化

栗原市内には、大小合わせて24か所の直売所があります。毎日営業している所から曜日を決めて営業している所、冬季休業する所など営業形態は様々ですが、構成員の高齢化や固定化、販売実績の伸び悩みなど共通する課題が多く見られます。

これらの課題解決のために、管内にある2か所の大規模直売所（あぐりっこ金成、あやめの里）と、7月末に新規開店する大規模直売所（くりでん）を核とし、経営体質の強化を図っていくことになりま

した。今年度の具体的な活動としては、①農産物の栽培や加工品の開発についての講座開催、②魅力ある店舗を作っていくための研修会等の開催、③直売所間の交流や情報交換、共同催事の開催などネットワーク化に向けた支援を考えています。

それぞれ直売所の集客力がアップすることで、直売所全体が盛り上がりと同時に、直売所同士が互いに高め合い、地域農業の活性化へとつながっていくことを期待しています。

No.5 地域農業を牽引する農業法人の経営強化

管内には、認定農業者としての法人経営体が29経営体あり、それぞれ個人農家や生産組織を母体とし、創意と工夫で農業に取り組んでおり、周辺地域のモデル的な農業経営体となっています。その中から今年度は2経営体を対象に農商工連携や6次産業化を取り入れた経営の拡大と充実を図るため支援を行います。

㈱愛宕産土農場では農商工連携事業を活用した枝豆の一次加工品の生産拡大と販路の開拓を中心に支

援します。

グリーンパール(株)では、ねぎの機械化一貫作業体系による周年栽培の確立と、ねぎ加工品の商品化に向けた6次産業化に向けた支援を行います。



平成23年度東日本大震災による農業被害対応制度資金の紹介

平成23年3月11日に発生した東日本大震災においては、数多くの農業施設が被害を受け、また、酪農の生乳廃棄等、農業者への間接的被害も甚大でした。被災農業者の経営復旧に向けた金融支援として、

既存の農業制度資金の優遇措置等の対応が講じられています。概要については、下表のとおりです。詳細は、栗原市、JA栗っこ、農業改良普及センターにお問い合わせ下さい。

| 運 転 資 金 | | | | | | | | | |
|----------------|--|------------|-------------|---------------------------|------|----------|-------------------------------|---------------|--|
| 平成23年6月14日現在 | | | | | | | | | |
| 資金名 | 貸付対象者 | 資金使途 | 償還期間 | 貸付限度額 | 実質金利 | 融資機関 | 貸付期間 | 債務保証 | 備 考 |
| 農林漁業セーフティネット資金 | 認定農業者、農業を営む個人、法人、認定就農者、集落営農組織 (直接被災者・間接被災者) | 経営再建に必要な資金 | 13年 据置6年 | 1200万円 特認年間経営費の12/12以内 | 無利子 | 日本政策金融公庫 | 無利子化は H23.5.2~ H24.3.31 | 実質無担保 無保証人 | 詳細は 日本政策金融公庫 仙台支店 022 (221) 2331 |

| 施 設 ・ 設 備 復 旧 等 資 金 | | | | | | | | | |
|---------------------|--|--|--------------|---|---------------|---------------------|-------------------------------|---------------------------------|--|
| 平成23年6月14日現在 | | | | | | | | | |
| 資金名 | 貸付対象者 | 資金使途 | 償還期間 | 貸付限度額 | 実質金利 | 融資機関 | 貸付期間 | 債務保証 | 備 考 |
| 農業近代化資金 | 認定農業者、農業を営む個人、法人、認定就農者、集落営農組織 (直接被災者・間接被災者) | 施設・設備の新設・復旧 (復旧は認定農業者に限る。) その他農機具、家畜購入育成費等 | 23年 据置10年 | 個人1,800万円 (特認2億円) 法人2億円 | 無利子 (18年間) | 農業協同組合銀行 その他金融機関 | 無利子化は H23.5.2~ H24.3.31 | 基金協会保証は基本的に保証料負担なし 実質無担保無保証人 | |
| スーパーL資金 | 認定農業者 (直接被災者・間接被災者) | 施設・設備の新設 長期運転資金 その他農地の改良造成取得、農機具、家畜の購入育成費等 | 28年 据置13年 | 個人1.5億円 (特認3億円) 法人5億円 (特認10億円) | 無利子 (18年間) | 日本政策金融公庫 | 無利子化は H23.5.2~ H24.3.31 | 実質無担保無保証人 | |
| 経営体育成強化資金 | 認定農業者 (直接被災者・間接被災者) | 施設・設備の新設 その他農地の改良造成取得、農機具、家畜の購入育成費等 | 28年 据置6年 | 個人1.5億円 法人5億円 | 無利子 (18年間) | 日本政策金融公庫 | 無利子化は H23.5.2~ H24.3.31 | 実質無担保無保証人 | 詳細は 日本政策金融公庫 仙台支店 022 (221) 2331 |
| 農林漁業施設資金 | 農業者 (直接被災者) | 施設等の復旧 | 28年 据置13年 | 1施設当たり 1,200万円 | 無利子 (18年間) | 日本政策金融公庫 | 無利子化は H23.5.2~ H24.3.31 | 実質無担保無保証人 | |

1. 無利子化限度額の下限設定はありません。
2. 無利子化、償還期限の延長等を受けるためには、市町村等の証明が必要となります。
3. 東日本大震災農業生産対策交付金を対象として融通される補助残融資資金（施設・設備復旧資金）についても、無利子化の対象になります。

お知らせ

—— 農産物直売所 ——

「くりでん」

発車!!

7月30日に、若柳地区に新規直売所がオープンします。2年ほど前から検討を重ね、出荷組合を設立して準備を進めてきました。施設内には、農産物販売コーナーや食堂コーナーのほか、もち、味噌、パン、惣菜の加工施設が整備され、多様な加工品も店舗内で販売します。オープン時には楽しい企画が満載、季節ごとのイベントもいろいろ考えています。ぜひ、栗原の季節の産品をお楽しみください。

普及センターのホームページをリニューアルしました!

URL <http://www.pref.miyagi.jp/kh-nokai/>

稲作通信や果樹生育情報を始めとする各種技術情報やくりはらだよりなどを随時更新していきます。今後はより一層、イベントのお知らせや新着情報の欄を充実させていきますので、多くの方のアクセスをお待ちしております。

農薬は使用方法をラベルでよく確認し、正しく使いましょう

技術情報

園芸作物における病害虫の物理的防除法について

昨年の夏は記録的な高温少雨となり、アザミウマ類、コナジラミ類などの害虫や、アブラムシに起因するウイルス病が多発しました。今年6月25日現在の3か月予報では、今夏は平年並みから高い気温が予想されています。高温下での薬剤散布は労力的な負担が大きく、薬害の危険性も高まるため、様々な手段を活用してできるだけ害虫等の密度を下げたいところです。そこで、現地事例等で有効性が確認されている物理的防除法をいくつか紹介します。

(1) 防虫ネット

ハウスの開口部に1.0mm以下の目合いのネットを展張することにより、害虫の侵入を防止するものです。目合いが小さいほど侵入防止効果が向上しますが、逆に通気性が悪くなりハウス内温度が上昇することが欠点です。そこで、ごく細い繊維を用いて間隙率を高めたり、(2)の光反射資材と組み合わせるなど(スリムホワイト等)、侵入防止と通気性確保の両立を狙った資材が市販されています。

(2) 光反射資材

害虫類が日射を感知して飛翔体勢を保っていることを利用し、太陽光を乱反射させることで正常な飛翔を妨げ侵入抑制するものです。光反射シート(タイベック等)をハウス脇の地表面に敷設することで、アザミウマやアブラムシの侵入を抑制できることが実証されています。マルチ資材としての使用も有効です。

(3) 粘着シート

黄色(害虫全般対象)あるいは青色(アザミウマ類対象)の粘着板や粘着ロールをハウス内に設置し、害虫を誘引して捕殺するものです。害虫の発生予察に使用するのが一般的ですが、大量に設置(例:ホリバーシート10a当たり100~200枚)することである程度の捕殺効果が期待できます。

いずれの資材も単独では防除効果が大きくないので、効果の高い化学薬剤や天敵製剤と併用するなど有効性を高める工夫が必要です。

トピックス

受賞おめでとうございます!

「瀬峰農場が第40回日本農業賞大賞を受賞!」

NHK、JA全中などが主催する第40回日本農業賞集団の部で瀬峰地区循環型農業推進会議(会長、大内一也)が見事大賞を受賞しました。



「農林水産大臣賞」受賞!

平成23年3月10日、東京よみうりホールにて開催された農山漁村女性の日記念のつどいの席上、平成22年度農山漁村女性・シニア活動表彰の表彰式が行われました。女性起業・経営参画部門で農林水産大臣賞(最優秀賞)を受賞したのが、農家レストラン「四季味」代表の鈴木春江さん(若柳地区)です。鈴木さんは、環境に配慮した農産物生産の取り組みから、自らの農産物を使った農家レストラン経営へと発展。また、後継者と家族経営協定を締結し、男女共同参画推進の活動にもかかわるようになり、現在では栗原市農業委員として、女性ならではの視点を取り入れた活動を行っています。これまで家庭や地域で行ってきた活動の数々が評価され、今回の受賞となりました。鈴木さんは今後も新規直売所に出店するなど、周囲の方々と連携を取りながら経営の拡大を図って行く予定です。



被災地への思いを込めて〜

瀬峰農場田んぼアート

6月4日、栗原市瀬峰地区の水田1.2ha(JR東北本線沿い)を会場に田んぼアートの田植えが行われました(主催:瀬峰地区循環型農業推進会議[愛称エコせみね])。

4年目となる今年のテーマは東北楽天ゴールデンイーグルスと震災被害者への激励。当日は球団の公式チアリーダー、東北ゴールデンエンジェルス3人とベースボールスクールの鷹野コーチが参加し、地元の小学生や市民約170名とともに田植えをしました。事前に小牛田農林高校農業技術科2年の41名が測量・マーキングしてくれたデザイン通りに植えられた苗は、7月中旬には葉が緑、紫、黄、白になり、イーグルスのロゴマークや被災地に向けて、「がんばろう東北!!」のメッセージが田んぼに浮かび上がります。

また、小牛田農林高校農業クラブ有志が子供たちやエンジェルスと一緒にサルビアやマリーゴールドを30個のプランターに植え、励ましのカードを添えて、後日被災地の小学校へ届けました。



農業振興部及び農業改良普及センター職員紹介 (平成23年7月1日現在)

技術次長
(総括担当) 【作物】
庄 子 一 郎



技術副参事
兼次長 (総括担当) 【畜産】
佐々木 宏 行



部長
兼栗原農業改良普及センター所長 【畜産】
及 川 恵 壽



技術副参事
(農業普及指導担当) 【作物】
岡 本 栄 治




〈主な職務〉

【地域調整班】

- ◇経営所得安定対策
- ◇農業振興地域整備
- ◇農地法
- ◇農業金融
- ◇土壌汚染対策
- ◇農業環境の保全
- ◇米の生産調整

【地域農業班】

- ◇地域農業振興計画の推進
- ◇地域営農システムの確立支援
- ◇多様な担い手の確保育成
- ◇経営所得安定対策

【先進技術班】

- ◇生産技術改善
- ◇農業経営改善
- ◇主要農作物の種子生産
- ◇農業労働改善
- ◇農業制度資金
- ◇農業安全指導
- ◇環境に配慮した農業の普及

地域調整班
TEL 0228-22-2268
FAX 0228-22-5795



主査 平田 建



次長 (班長) 菅原 憲昭



主査 木皿 正人



主査 石堂 初男



主事 大内 英典

地域農業班
TEL 0228-22-9404
FAX 0228-22-6144



技術次長 (班長) 兼地方振興部企画員 【栗樹】
渡邊 真文



技術次長 (副班長) 【作物】
小山 淳




技術主査 小松 知子




技術師 高橋 佳


先進技術班
TEL 0228-22-9437
FAX 0228-22-6144




主任主査 【野菜】
瀧 典明




技術主幹 (副班長) 【作物・経営】
今野 嘉徳




技術次長 (班長) 【作物】
堀内 保昭




主任主査 【畜産】
大庭 康彦



土壌分析パート
千葉 勢子



技術師 小山 かがみ



技術師 上野 慶紀

農機散布作業中、作業中の事故に注意しましょう